

わ
が
町

中井町

みんなが集う
こゆるぎの里山づくり

中井町は、東西約6.8km、南北約5.3km、面積20.2km²のほぼ四角い形をしており、地勢は、大磯丘陵に属して起伏が多

く、概して町の西北部は山地で東南部は緩傾斜地になっています。蘇我山を含め四本の稜線が南北に走り、その間

を中村川、藤沢川、葛川がそれぞれ南（相模湾）に向かって貫流し、風光明媚な自然景観を形成しています。

町の森林面積は755haで町全体の38%を占めており、これは田・畑を合わせた面積を上回っております。ナラ、クヌギ等が一部シイタケ栽培に活用されておりますが、スギを中心に植林された針葉樹林は用材として利用時期を迎えているものの、生産資源としての利用は図られていません。

森林は水源の涵養地としての機能を有し、さらに土砂の流出防止や大気の

こゆるぎの里山づくり
文化彫刻の地
事業計画



里山を生かした、ヒガンバナの植栽イベント

浄化機能を兼ね備えております。起伏が多く、地下水を水源としている中井町では、保安林事業や砂防事業の促進で森林の保全に努めてきました。しかし、行政側だけの対応では不十分です。

中井町は、かつては第一次産業就労者の割合が最も多い町で、乳用牛・野菜・みかんの生産が町の主要産業でした。この当時は、野菜作りに使う堆肥や日常生活に使う薪を得るため、里山は手入れが行き届いておりました。しかし近年、農業の担い手不足と相まって、里山の多くは手が加えられないまま放置されております。

中井町では、平成16年度に里山や付近農地を体験交流やレクリエーションの場として活用するという事業計画が立てられました。それは、「こゆるぎの里文化彫刻の道づくり事業」という名称が付けられております。計画地は、中井町の中心部に位置する中井中央公園の北側一帯です。谷戸地形の農地・樹林地からなり、農地は野菜作りとみかん栽培が行われており、またこの農地を取り囲むように雑木林が広がっております。ここからは、富士山や丹沢山塊、箱根外輪山、相模湾などの自然風景を眺めることができます。景観に恵まれたこの地を「みんなが集うこゆるぎの里山」とすることを目標として

おります。既に一部の農地を利用して、農家の人の協力を得て、「秋の里山めぐり事業」という名称で毎年参加者を募集し、農産物の収穫体験を実施しておりますが、なかなかの好評です。

秋の里山めぐり事業を更に発展させ、森林においても地域住民やボランティアの参加、協力を得ながら雑木林の維持管理活動を推進することにより保全を図ることが事業目的の一つにあげられております。今後は、雑木林を活用した自然観察や森林浴、炭焼き、シイタケ栽培などの体験活動を展開し、地域間交流を図る方針であり、そのために必要となる活動拠点（休憩、各種便益、機材置き場等）の整備を平成17年度より順次進めて行きます。

堆肥や薪を得るための大切な資源であった里山は、労力がかかることも一因となり、今では化学肥料や石油・ガス・電気を取って代わり、里山に関する関心も薄れております。豊かな自然環境とそこに広がる里山・農地を地域資源としてとらえ、町民と行政の取り組みにより事業実施するというこの方法は、今後の森林行政の取り組み方としておおいに注目に値します。